

## 「ハロウィンの市場規模」和田

もともと日本では馴染みの薄かったハロウィン。本来は秋の収穫を祝い、悪霊などを追い出す意味合いのある祭だそうです。1990年後半から東京ディズニーランドのイベントをかわきりに子どもだけでなく、大人も楽しめるイベントに変化した日本型ハロウィンが今ではおこなわれています。そんなハロウィンの市場規模は1,220億円ともいわれており、クリスマスの6,740億円に次ぐ勢いとなっているそうです。ちなみにバレンタインは1,080億円といわれており、すでにバレンタイン市場規模を超えているそうです。(平成29年日本記念日協会調べ) 僕も今回の記事の為にネットで『リアル悪魔』を注文しました。だれか一緒に街へ繰り出しませんか?(^\_^)



## 今さら聞けない 経済用語

## 今月の教えてキーワード：【デジタルトランスフォーメーション】

「ITの浸透が、人々の生活をあらゆる面でより良い方向に変化させる」という概念のこと。スウェーデンのエリック・ストルターマン教授が2004年に提唱したとされる。先が読めず変化の激しい時代の中、企業においては既存業務のデジタル化への移行や新ビジネスの開発が急務となる。またスマートフォンの普及などで消費者の購買行動もオンライン化できるため、広告やマーケティングなどの営業戦略も変革を迫られている。

## 偉大なる日本の100人に学ぶ 人の心を魅了する生き方。

## 【信義を重んじ愚直に生きる「福島正則」】

豊臣秀吉に仕え、槍一本で大名にのし上がったことで知られる福島正則は1561年、現在の愛知県あま市に生まれました。秀吉とは縁戚関係にあり、幼い頃から秀吉のそば近くに仕えていました。



かなりの剛腕でも知られ17歳で初陣を迎えると早々に手柄を挙げます。その後も功績を重ね、1583年の賤ヶ岳(しずがたけ)の戦いで輝かしい功名を立てたことにより、将来を大いに期待されるようになりました。しかし37歳のとき、秀吉が死去しその運命は変わり始めます。同じ豊臣の家臣でありながら反目関係にあった石田三成を倒したいという思いから、正則は徳川家康の思惑に乗せられ1600年の関ヶ原の戦いでは家康側として参戦。

ここでも戦功を挙げると安芸・備後(びんご)の2カ国、約50万石を与えられて大大名に出世します。広島城主となった正則は、政治でも手腕を発揮します。領内をくまなく巡視し、重要な土地には城を造るなどして組織体制を強化、街道や航路など主要交通路を整備しました。さらに年貢の率を下げると商人とも積極的に交流して豊表や酒などの産業も奨励し、堅実で近世的な治世を行ったのでした。しかし、2代将軍・秀忠に領地を没収された後は信濃に閉居し63歳で世を去りました。豊臣家に忠誠を誓うも家康の老練さに翻弄(ほんろう)された愚直で不器用ともいえる生き様でした。

今を生きる  
先人の言葉

虹の曇った心に  
虹になりなさい

アメリカの活動家・詩人であるマヤ・アンジェロウの言葉。これまで多くの人から受けてきた恩は、これからの若者たちに「恩送り」として返していきたいものだ。

# トレンドを斬る!

日本に進出した「OPPO (オッポ)」は、中国の大手電子機器メーカーです。中でも最先端の技術を駆使した高性能カメラの

スマートフォンが有名で、自撮り機能やビューティー機能の充実により中国では若年層から熱烈な支持を受けているそうです。大胆な広告戦略と地域ごとのニーズ重視によりわずか6年で世界第4位、アジアでトップシェアと急成長しました。徹底した自社生産でモノづくりにも余念がありません。日本ではどのような躍進を見せるのか注目ですね。



## 365日が楽しくてたまらない! 「商売のヒント」

### 今月の商売のヒント:【楽観主義でいこう!】

その出来事をどう捉えるか——。これは本人の性格や状況、もっと高い視点でいえば、その人の哲学によって出来事の受け止め方は変わってきます。例えば、1万円を失くしてしまったら、多くの人は「もったいない。どうして気付かなかったんだ」と悔しがって嘆くでしょう。ところが、ある社長は1万円を失くしたことに気付いた瞬間こそ「ああ・・・」としょんぼりしたものの、そのすぐあとに「だけど私の1万円は拾った人の役に立つだろうから、それでいい」と笑っていたそうです。彼は普段から何かにつけてそんな調子だとか。思うように事が運ばなくても「そんなこともあるよね」と笑い飛ばし、アクシデントに見舞われても「こんなこと、めったに体験できないから」とアクシデント自体を楽しんでしまう。良くも悪くもあまり物事にこだわらず、執着しないたちなのでしょう。その楽観主義が周囲を和ませるのか、彼の周りにはいつも人が集まってきます。人が集まる場所にはお金も集まってくるので、彼の商売が順調なのも自然の成り行きなのでしょう。



よく言われる例えですが、失敗を「失敗」だと思わずに「経験」だと捉えれば、クヨクヨ悩まずにすみます。こんな楽観主義を「能天気」だ「お気楽」だと批判する人もいますが、脳科学者の茂木健一郎氏の著書『脳を活かす仕事術』によれば、「脳は楽観主義でちょうどいい」そうです。脳がうまく働くにはある程度、楽観主義なほうがいいという意見には経験的に思い当たる節もあり、何でも捉え方次第だと改めて痛感しました。早いもので今年もあと2カ月あまりとなりました。残りの日々を横目で見ながら1年のまとめに入っている気の早い人もいるでしょう。節目のタイミングでは、出来事を「良かった」「悪かった」の二分法で考えがちですが、「良い」「悪い」の判断より、色々あったけれど何とかやっていることに目を向けてみるのも悪くありません。思い悩んでもすべて過ぎてしまったこと。やり直せない過去にこだわれば、執着する分だけ未来に暗い影が差します。バランスのよい楽観主義でいきたいものですね。



トナリの

## 本棚



### 【かがみの孤城】

2018年本屋大賞を受賞した長編小説です。鏡をくぐり抜けた城の中に集められた不登校の子どもたち。孤城の秘密を追う彼らを大人として見守るうちに、驚きの結末にたどり着きます。子どもの頃の自分に読ませてもらいたくなる一冊です。

### 船越税理士事務所

〒620-0054

京都府福知山市末広町1-1-1 中川ビル3階

TEL:0773-22-3708 FAX:0773-22-7343

<http://www.f-office301.com>

E-mail: [info@f-office301.com](mailto:info@f-office301.com)

皆様のご感想をお待ちしております ☺☺☺☺☺☺